

子育てコラム

生きること一番大変なこと大切なことは「待つ」とよく聞きます。1987（昭和五七）年の大ヒット曲「待つわ」、かわいいうちの子 わりとやるもんだねと…あるように、「待つ」はやはり人生の大テーマですね。

その「待つ」を子育ての大きなキーワードにしている幼稚園や保育園、施設などが日本にはいくつもあると聞き驚いています。

その一つに、子どもへの具体的な接し方、ほめ方、心育て、食べ物のこと、身体育て、能力育てなど、そこにはいつも「待つ」をキーワードにして、待つ子育てをしている幼児教室があります。それから、登校拒否やひきこもりなどの悩みに答えようと、「待つ」をキーワードにして、待つ子育てを語りかけている先生もいます。

今では古い子どもの歌になっていますが、もういくつねとお正月…（作詞：東くめ、作曲：滝廉太郎）は、歌うことで楽しいお正月を思い起こし、待ち遠しい子どもの気持ちを表現しています。

まあ、「待つ」とは、物事を成しとげるには長い時間がかかるということでしょうか。諺に「桃栗三年柿八年」があります。ここでは、実になるまでの年数を言っているのですが、それにしても、あの柿の木、春の新緑の見事さ、そして花が咲き、（着地した）花びらの数の多さ、実がなってもまだまだあおい柿の実、その柿の実が熟していく様子は、おいしくなるだけに「待つ心」を教えてください。

11月 かき 詞/五十野惇

♪ すこしずつ すこしずつ
いろづく いろづく
まいにち まいにち
みあげていた みあげていた
♪ かきの み
かきの み
♪ もう たべられる かな
もう たべられる かな



学生のプログコメントから

たくさんの柿がきれいに色づく瞬間を一度見てみたいです。でも、それは無理ですね。待つって待つって色づくのですね。

柿の色づきを毎日楽しみにしながら気を見上げる子供の姿が目には浮かびます。二回繰り返して言う詩なので前半、後半に分かれて言い合うのも楽しいと思いました。

私が小さい頃に祖父の家にある柿の木から祖父は食べきれないほど送ってくれました。かきの歌を読んで、祖父は私のために食べ頃の時期を見て『まいにち みあげていた』という部分が『もう たべられるかな』のところが私に当てはまると思いました。

もう食べれるかな？っというところに、子供の楽しみにしている光景が目には浮かびました。

早くたべたいな、と心待ちにしている子どもの様子が目には浮かびます。渋柿ではなく、あまーいあまーい柿でありますように。

かきの み を食べるのを楽しみにしている感じがとても伝わってきます。私も小さい頃はよく見上げてました。かきはおいしいから好きです。

11月 いちょう 詞 /五十野惇

- ① かぜよ ふけ ふけ
きんいろの とり とんでけ
いちょうの きのはっぱ
きんいろの とりに みえる
- ② かぜよ ふけ ふけ
きんいろの たま おしろ
いちょうの きのみ
きんいろの たまに みえる



学生のプログコメントから

歌の例えが「きんいろのとり」や「きんいろのたま」などかわいく、すごく分かりやすいので、子どもも自然と口ずさんだりすぐ理解してくれるのではないかなと思いました。この歌はぜひ、今の季節に子ども達と公園などで実際にいちょうの木を見て、はっぱの形や

銀杏をじっくり観察したいですね。はっぱが落ちてくる時は本当にきんいろのとりが飛んでいるみたいに見えますし、実際に本物を見てみんなで「そっくりだね！」と納得出来ると思います。また、他の木もみんなでじっくり観察して色々な色や形、〇〇にみえるなど、子ども達が自分から新しい発見が出来ると良いなあと思いました！子どもの気持ちがつまった、かわいい作品だと感じました。

私の小学校にもありました。大きないちょうが2本並んでいて、とても印象的でした。秋になるとこの唄のように、風になびいてひらひらとキレイな葉っぱが落ちてきたことをとてもよく覚えています。いちょうの葉は黄色いけれど、日の光が通って光って見えます。(私には)きんいろの鳥と言う表現は私の中で出てこなかったなので、良い表現だと思いました。

イチョウの葉っぱをきんいろのとり銀杏の実をきんいろのたまという喩えが面白いと思いました。例えがとても面白かったです。確かに黄色くしげった葉っぱが一気に舞う瞬間…鳥のように見えますね。

お散歩で大通りを歩いたり公園に行ったりしてきんいろのとりときんいろのたまを集めて画用紙に貼り付けてそれを保育室に貼ったらきんいろのお部屋ができるなあ☆

いちょうは、紅葉して本当に金色のようにきれいですね。そんな四季の移り変わりを子どもたちに知ってもらうために、たくさん出かけたいと思いました。

子ども達とこの歌を歌いながら、並木道に出掛け、イチョウの葉っぱと銀杏を取ってきます。イチョウの葉っぱは、子ども達が自由に画用紙に張って、そこに絵を付けたし、鳥にしたり、仮面にしたりして、子ども達の発想力を育てます。

11月 かえで＝もみじ 詞 /五十野惇

★ 「とん とん とん」
「どなたですか」
「わたし かえで」
もう ひとつの なまえは もみじ」
「おんなの こ ですか」
「いいえ」
「おとこの こ ですか」
「いいえ」
「それでは どなたですか」
「きの はっぱです」
「おはいいなさい」
「こんにちは」
「きゃー かえるの て」

学生のプログコメントから

会話形式が面白いと思いました！最後のおちも・・・かえるのて！！！！2つのチームにで
花いちもんめのようにリズムとメロディをつけてあそびたいです☆

落ち葉で一番好きな形はもみじです！落ち葉にならなくても緑の時のもみじもとてもかわ
いいので好きです☆☆さいごの「かえるのて」というところになるほどなあ……と思えま
した！！！！

子どもたちにもみじの写真を見せて、「これは何かな？」という質問を投げかけると、きっ
と「もみじ！」という答えが返ってくるのだと思います。その後で、「実は、もみじにはも
う1つ名前があって、『かえで』といいます。」と簡単に説明したあとでこのお話を読んで
あげると、子どもたちは、より興味を持ってお話を聴いてくれると思います。

「きゃー かえるの て」というところでは、かえるの手の写真も見せ、もみじと並べて
みると子どもたちに伝わりやすいのではと考えました。

お話を読み終えたら、もみじのように、2つの名前を持つものを子どもたちに考えさせ、
発表してもらい、さらに、子どもたちには発表されなかったものを、いくつか教えてあげ
ると、子どもたちは、楽しみながら言語を獲得することができると思います。

一方的に教えるのではなく、子どもたちにも考えさせることで、子どもたちも楽しく学べ
るのではないかと思います。

この会話劇をいかしてお遊戯会などで披露できればいいなと思いました。たとえば、3匹のこぶたなどのお話を少し脚色して、この部分を織り込んだりなどしていつものお話とは違ったお話も子ども達に体験させてやりたいです。

「とん とん とん」という部分が、ドアの扉をたたいてる音みたいなので、みんな（子供たち）で扉をたたくふりをして、「どなたですか」と質問して、自分がその次の「わたし・・・」という部分をやったら楽しいとおもいました。最後の「きゃー かえるの て」というところがおもしろいと思いました。



11月 かえるの かんばん

詞 /五十野惇

- ① 「かぜが つめたいので はるに なってから あそぼう」
とうみんちゅうの かえるの かんばん
- ② 「あめが つめたいので はるに なってから あそぼう」
とうみんちゅうの かえるの かんばん

学生のプログコメントから

かえるが冬眠中に看板を出しているという表現がとてもかわいいなと思いました。風や雨が冷たいから春まで待たなきゃ！と子どもは思うと思います☆冬眠は人間には無く子どもは理解しにくいと思うのでこのような詩で教えてあげるのが良いと思いました。

人形劇をしたら、面白いかなと思いました。ストーリーは梅雨の時期は元気だったかえるが冬になると、どんどん元気がなくなって行って最後に「もう寝なきゃいけない時間になったから僕は寝るね。みんなまた来年の梅雨に会おうね」と、バイバイして終わるみたいなかんじがいいかなと思いました。

個人的にすごい好きな詩です。その看板をだしているカエルを想像すると、かわいいなどおもいます。短い詩ですがお話になっていておもしろいと思います。

11月 カメムシ 詞 /五十野惇

★ くさくて ね あの むし
かめむし と いうんだ

おしやれで さ さわりたい
きれいな むし なんだ

さわったら さ どうなる
そりゃ たい へんだ

あらっても おちない おっ
いやな におい だだだ

きゅうりや とまとの しるを すう
わるい むし なんだ

でも でも
この むし ことりの えさ なんだ



学生のプログコメントから

かめむしは臭いから嫌いだと思っていたけど、この歌を詠んだら少しかわいいな、と思いました。でもやっぱり歌にもあるように臭いのがほんと嫌です！今度いたら触らないけど少し観察してみたいと思いました。

かめむしは見た目はきれいなのに、においがくさくて残念です。この歌は、ちょっとした劇ができるのではないかなと思いました。カメムシ役、ことり役を決めてから、最初はカメムシ役の子はえらそうにしているのだけど、最後にはことりに食べられてしまうという劇を演出したら面白くなるのではないかなと思いました。

カメムシの特徴がすぐに知れてわかりやすい歌だなと感じました。カメムシにきれいな色があったなんて・・・この歌で初めて知りました。けど絶対に触りません！！高校生の時

は回りが森だったので季節になると大量発生し毎日が格闘の日々でした・・・笑

「あらってもおちないいやなにおい」というところで、かめむしの臭さがよく伝わってきます。

カメムシって鳥のえさになるんですね。とても臭いイメージのある虫。鳥は臭く感じないのでしょいか？



11月 しでむし 詞 /五十野惇

★ しでむし しでむし
しでむしは もりの おそうじやさん
しんだ どうぶつを たべるよ

もし しでむしが いなかったら
もし しでむしが いなかったら

もりの おそうじやさん
まだ まだ いるよ
ごきぶり だに ごみむしも
もりの おそうじやさん しでむし

11月 ほおの きの はっぱ

詞 /五十野惇

- ① ほおの きの はっぱ おおきいな
はっぱで ごはんを つつもうよ
たん たん たん たん いい におい
- ② ほおの きの はっぱ おおきいな
はっぱで おめんを つくろうよ
こん こん こん こん きつねだぞ



子育てコラム

ちょっと大げさですが、物の見方、考え方はどうしたら伸びるのでしょうか。Z E Mディレクター一年生新人研修の折、ある先生が「物の見方、考え方を、具体から抽象、抽象から具体へ」とすることで、物の見方、考え方が深まるとお話されたことを強く記憶しております。では、具体から抽象、抽象から具体へとは、どんなことを指すのでしょうか。

ここに「まっかな秋」という抽象的な言葉があるとします。名曲の童謡「まっかな秋」（作詞・薩摩忠、作曲・小林秀雄）では、具体的に「つたの葉っぱ、もみじの葉っぱ、からすうり、とんぼの背中、ひがん花、たき火」とあります。

確かに「まっかな秋」では抽象的でどんなお話かがわかりません。「つたの葉っぱ、もみじの葉っぱ …」とすることで「まっかな秋」がわかります。でも逆に「つたの葉っぱ、もみじの葉っぱ …」と具体的に並べたててもどんなお話かがわかりません。やはり抽象的な「まっかな秋」とすることでどんなお話かがわかります。

やはり具体から抽象、抽象から具体へとすることで、お話の内容がわかるようになるのですね。

もう一つは多くの幼稚園や保育園で利用されている歌を紹介します。

11月 あか き ちやの はっぱ

詞 /五十野惇

- ♪ あかい あかい ね
かえでの きのはっぱ
かきの きのはっぱ
あかい あかい ね
- ♪ きいろ きいろ ね
いちょうの きのはっぱ
かつらの きのはっぱ
きいろ きいろ ね
- ♪ ちゃいろ ちゃいろ ね
ならの きのはっぱ
くりの きのはっぱ
ちゃいろ ちゃいろ ね



学生のプログコメントから

秋は木の葉っぱの色が3色に分かれるのでとてもキレイだと思います。赤・黄色・茶色この3色を見るともう秋だなあと感じます。この唄は「あかい あかい ね」や「きいろ きいろ ね」「ちゃいろ ちゃいろ ね」と色を強調しているので、こどもは色をしっかりにんしきできるし、また、語尾が「～ ね」と語り掛けているので、こどもにこの唄を聞かせれば、きっと頷いてくれるし、「～の木をあかい葉っぱだよ～」などと言う感じで秋の木の葉の色が勉強できると思いました。

あかい あかい ね と「ね」が入るととてもかわいい雰囲気になりますね。おっとりした感じがいいなと思いました。ひとつの色に二つの葉っぱの例があげられていて、こどもたちはどんどん興味をもてると思いました。紅葉した木々を見ながら、この詩を言えば日本特有の四季も感じることができいいと思います。

こどもたちをあか、き、ちゃいろのグループに分けます。そしてそれぞれのグループのこどもたちが自分の色の番になったら、手をつないで輪になってくるくる回りながら歌うと楽しくできると思いました。あかいねあかいねなど、リズムが良いのでやりやすいと思いました。

子供たちには色んな紅葉の色を作ってもらい、軍手に張って、みんなでうたいながら、手で紅葉を表しながらやるといいと思いました。

あかい あかい ね
きいろ きいろ ね
ちゃいろ ちゃいろ ね

たったこれだけの言葉のくり返しで、秋の紅葉の情緒や美しさが鮮やかに伝わってきました。同じくり返しでも「きれい、きれい」ではリズムも単調だし、きれいなこと以外何も伝わってきません。つまらないしネ。こんな詩がすぐに浮かんだら、いっそう楽しいのになあ…

この歌、とても気に入りました！今の時期に予習をして紅葉を待つのも素敵！なにより子供たちにも親しみやすい。なぜなら「赤パジャマ 黄パジャマ 茶パジャマ」やあかはっぱ きはっぱ ちゃはっぱという早口言葉にそっくりだから！子供たちと一緒にぱバージョンで早口言葉大会をしたいです。楽しく思えると思います。

11月 むしの ふゆごし 詞 /五十野惇

- ① むしの ふゆごし ねんねこや
おやむしで ふゆごし ねんねこや
ねんねこ おやむし なーに
「かめむし
きたてや
ごみむし
てんとうむし
あり

はさみむし

はち」

サインは 「か き ご て あ は は」

② むしの ふゆごし ねんねこや

さなぎで ふゆごし ねんねこや

ねんねこ さなぎ なーに

「あげは」

サインは 「あ」

③ むしの ふゆごし ねんねこや

ようちゅうで ふゆごし ねんねこや

ねんねこ ようちゅう なーに

「こがねむし

いらが

せみ

みのむし」

サインは 「こ い せ み」

④ むしの ふゆごし ねんねこや

たまごで ふゆごし ねんねこや

ねんねこ たまご なーに

「かまきり

ばった」

サインは 「か ば」